

議長定例記者会見 会見録

日時：令和2年2月6日 10時30分～

場所：全員協議会室

1 発表事項

- 三重県議会議長が「南海トラフ地震による超広域災害への備えを強力に進める10県議会議長会議」の代表世話人に就任しました

2 質疑項目

- 三重県議会議長が「南海トラフ地震による超広域災害への備えを強力に進める10県議会議長会議」の代表世話人就任について
- 太平洋・島サミットの開催について
- Facebook への書き込みについて
- 選挙区及び定数に関する在り方調査会について

1 発表事項

- 三重県議会議長が「南海トラフ地震による超広域災害への備えを強力に進める10県議会議長会議」の代表世話人に就任しました

(議長)おはようございます。ただ今から、2月の議長定例記者会見を開催させていただきます。本日の発表事項でございますけれども、「南海トラフ地震による超広域災害への備えを強力に進める10県議会議長会議」の代表世話人就任について発表させていただきます。発表事項1の資料をご覧ください。令和2年2月6日、本日付で、私が、高知県の桑名龍吾県議会議長の後任として「南海トラフ地震による超広域災害への備えを強力に進める10県議会議長会議」の代表世話人に就任をいたしました。この10県議会議長会議ですけれども、設立当初から10県知事会議と連携した活動を行っておりまして、令和元年12月7日付で、三重県知事が10県知事会議の代表世話人に就任したことを機にですね、高知県議会議長から代表世話人交代の提案がありまして、これに対して、構成する各県議会議長の同意が得られましたもので、代表世話人の引継ぎの用意も整ったということから、本日、代表世話人就任に至りました。今後は代表世話人という立場で、構成各県の議会をはじめ、10県知事会議とも密接に連携・協力しながら、効果的な政策提言などに取り組んでまいりたいと思っております。この10県議会議長会議の概要ですけれども、この会議は、巨大地震により特に大きな被害が想定される県の議会が、密接な連携のもとに、政府をはじめ、全国民に対して、巨大地震・津波の被害を最小限にとどめるた

めの備えの必要性を訴えて、その対策の推進を強力に進めていくため、平成23年7月27日に設立されたものであります。本県議会も設立時から参加し、構成各県の議会と連携して、国への政策提言などに取り組んできたところがございます。会議の構成としましては、南海トラフ地震で特に大きな被害が想定されている静岡、愛知、和歌山、高知など、10県の県議会議長で構成されています。折しも、先月24日にはですね、国の地震調査委員会から、南海トラフ地震に伴う30年以内の3メートル以上、5メートル以上、10メートル以上の津波発生確率が発表されたところがございますけれども、引き続き、構成各県議会と連携・協力しながら、しっかりと代表世話人の役割を果たしていきたいと考えておるところでございます。私からの発表事項については以上でございます。よろしくお願いたします。

2 質疑応答

○三重県議会議長が「南海トラフ地震による超広域災害への備えを強力に進める10県議会議長会議」の代表世話人就任について

(質問) 幹事社から確認ですけれども、代表世話人っていうのは、委員任期はあるんですか。

(議長) 任期はですね、特に定められておりません。で、今回も最初から高知県知事が、10県知事会議立ち上げ時からですね、代表世話人をされてらっしゃって、昨年の12月7日に、三重県知事のほうに、交代になったのを機にということでありまして、10県知事会議のほうも特に、この期間っていうのが決まってるわけではないということでございます。

(質問) 三重県議会の場合は、ちょっと可能性としましては、議長が交代する可能性もあると思うんですけれども、その場合は、次期議長がこの役柄を継ぐということでしょうか。

(議長) その通りでございます。

(質問) あらためて抱負ですかね、コメントとして、意欲をお願いします。

(議長) 10県の議会それぞれに抱えてる課題は、共通部分あれば、それぞれのところもあるかと思えます。そういったことを率直に意見交換する場をですね、積極的に持っていきたいなど。今、年に1回、東京で行われる都道府県議会議長会のタイミングを使ってですね、そういった意見交換の場を持ってるんですけれども、可能ならばもう1回ぐらい、年にですね1回議長同士が集まっ

て、ちょっと率直な意見交換したりだとか、また、その10県の中で、さまざまな防災地震対策されていらっしゃると思いますので、そういった現場も、過去にもそういった視察もされたらしいんですけれども、できればそんな視察なんかもですね、やっていきたいなと思ってるところです。

(質問) 幹事社からは以上です。この関係でよろしくどうぞ。

(質問) 平成23年7月に設立した当時からの10県ということなんですか。

(議長) 正確に申し上げますと、最初は9県でありました。9県であったのが、後に平成29年に香川県が加わったということになります。その背景にはですね、この南海トラフ地震が起こった時に、国としてどういう支援をするかっていう計画を立てた時に、これまで、被害が大きいと思われる9県あったわけですけども、それに香川県もですね、南海トラフの地震の被害が香川県自身を持っている医療だとか防災体制で考える、比較すると、非常に大きな被害があるだろう。他県からの全国からの支援が必要だろうっていう10県というこのリストアップがなされた中で、香川県も加わられて、平成29年から10県になったっていうところです。

(質問) ちょっと、議長会議と別になります。申し訳ないですけど、知事会議のほうの設立も23年だったんでしょうか。

(議長) そうですね。知事会議のほうは少し早いですけども、平成23年の6月ということでございます。

(質問) 同じ年に合わせて輩出されたということ。

(議長) はい。

(質問) 23年から、ずっと高知県が務めてきたということなんですね。

(議長) はい。そうです。

(質問) そんな中で、今回、その約10年を経て、この三重県にこの知事会議の議長とこの議長会議の議長、代表者が回ってきたというのは、議長、聞かれています範囲でこれ何か経緯があったんでしょうか。

(議長) 大きな理由は先ほど申し上げましたように、昨年12月7日に三重県知事が10県知事会議の代表世話人になられたということで、それを受けてですね、高知の議長のほうから、10県知事会議と10県議長会議のほうと連携しながら進めていくには、同じ県の知事と議長がそれぞれ代表世話人をしたほうが効果的に回るんじゃないかという、そういったご提案があって、各関係する議会の皆さんにそれでよろしいかということの同意をもらっていただいて、本日就任という運びになったという流れです。

(質問) 2月6日付けで、これは書面でそうなった。何か会議があって、この場で決まったんですか。

(議長) 高知県の議長のほうから、関係する議長宛てに代表世話人の交代についての同意の確認のですね、文書が回りまして、当然三重県議会のほうにも参ったんですけれども、すべての県議会の議長さんがそれでいいじゃないかというふうなお答えをいただいて。実は本日ですね、高知県のほうへこの後行かせていただきまして、引き継ぎをさせていただくということで、本日発表させていただいたという次第でございます。

(質問) 年に1回は会合の機会を開いているけれども、議長としてはもう1回ぐらいはなにか集まれる機会を設けたいということではよろしいですか。

(議長) はい。

○太平洋・島サミットの開催について

(質問) 太平洋・島サミットがまた三重県で、志摩で開催決まりましたけど、議長の地元でもあります。議会を代表してちょっとコメントいただけませんかでしょうか。

(議長) 伊勢志摩サミット開催から5年目ということ、それと三重県がパラオ共和国とのですね、友好提携から25年という節目の年になる来年の時に、この太平洋・島サミットの誘致が成功できたというのは非常に喜ばしいことだなと思っております。地域住民の皆さんにはまたさまざまなご負担をお願いするところもあろうかと思うんですけれども、伊勢志摩サミットで得たレガシーっていうんですかね、まさにあの時のおもてなしの体制であったりだとか、テロ対策のパートナーシップのことであったりだとか、そういった成果がまだ残っておりますので、そういったものを十分生かして、伊勢志摩サミットの時と

同様、それ以上のですね、この地域の高揚感というかそういうものを高めていく中で、三重県を発信できるいい機会になるのではないかな。また、今回テーマがG7のサミットと比べて島国を中心としたところですので、やっぱり今問題になっている地球温暖化のことだとか、あと、うちも今アコヤガイで大変な目に遭ってますけれども、海洋資源の管理のあり方だとか、そういった、かなりトピックとしては廃プラの話も含めてですね、すごくわかりやすいというか、より身近な内容になろうかと思しますので、そういった議論される内容もですね、非常に期待したいと思ってます。

（質問）そうした中で、世界から注目が集まるわけですけど、三重県のことではね、何を一番PRしていきたいとお考えですか。例えば知事とかですとね、真珠なんかをちょっとアピールしたいなというふうなコメントもありますけど、議長としては何を一番PRしていくのかなっていう。プライベートなお考えで結構です。

（議長）今回志摩市を会場として選んでいただけた大きな理由の一つに、志摩市がSDGs未来都市っていう全国で11か13だったか、ちょっとはつきり数は覚えてないんですけども、その中の一つに選ばれてるっていうことが大きいかなと思います。なぜ志摩市がSDGs未来都市に指定されてるかの大きな理由が、持続可能な漁業、例えば、伊勢エビを乱獲しないだとかですね、海女漁みたいなもので資源を守りながら漁業をしていくっていう、そういうのがすごく大きいっていうのもありますので。志摩市が持つてるSDGsっていう観点、それから三重県としても今回の新しい行動計画でSDGsを考慮したような計画づくりをしていますので、今回は三重県のSDGsの取り組みっていうものが大きく発信できれば非常にいいのかなと思ってます。

（質問）アコヤ貝の関係で、この間、志摩市がアコヤ貝の母貝生産について補助を出すということで発表いただいたんですけども、一部の生産者からは、やっぱり愛媛県から母貝を基本的に購入しているので、海の問題点がまだ解決されてない環境要因があるので、結局志摩市で母貝生産してもうまくいかないんじゃないかという不安の声が上がってるんですけども、その件に関して議長何かお考えありますか。

（議長）そういった不安を持たれる漁業者のお気持ちもよく分かるころではあるんですが、今やっぱり私は必要な対策の一つとしては、さまざまな種類の母貝、稚貝をですね、さまざまな産地で取り寄せて、どの貝が今回の環境変化に強いのか、なぜ今回へい死したのかっていう主原因がまだ分かってはいない

んですけれども、さまざまな種類の母貝、稚貝を用意する中で、ベストな貝を選ぶという意味においては、志摩市のほうで母貝や稚貝を生産するという取組も、私はこれは進めていくべきだなと思ってますので。あとは漁業者の、養殖業者の皆さんがそれらの貝を使っていたりかどうか、また使った状況がどうなのかということの情報の集約っていうんですかね。意外と養殖業者の皆さんそれぞれ技術持ってらっしゃったり、外に出さないノウハウというものを持ってらっしゃいますので、ご自身が持っている情報を皆で集約して、問題点を明らかにしようっていうところは、実はちょっと三重県の場合はなかなかこれまでも難しいところがあったんですが、これはもう全体の危機なので、ぜひ養殖業者の皆さんそれぞれ持っている情報を出し合って、何がベストな対応なのかっていうところをですね、経験値の中で見つけていく必要もあるのかな。一方で、科学的にどんなことが原因なんだということもですね、しっかりと追求していく必要があると思っています。

○Facebook への書き込みについて

（質問）代表者会議で、共産党県議会会派の Facebook に関して経緯の説明がございました。議長として、あらためて最近インターネット上の投稿であったりとか発言等で、2 回県議の方々の対応が問題視される場面が相次いでますけれども、そういった点も含めて、今後どういうふうに具体的にそれらをなくすために取り組まれないかという思いをお聞かせください。

（議長）まず、今回の日本共産党三重県議団の Facebook 上のやりとりのことについては、昨年いろいろと議論のあったですね、議員個人のツイッター等の発言とは若干ちょっと異なっているなという認識がまずあります。一つは、議員個人ではなくて、議員団という会派として、そういう発信をされた。また、相手方が特定の一県民の方であって、その方に対しての非常に辛辣なコメントだったということでもありますので、これは公の党としての共産党として、しっかりと反省はしていただかなきゃいけないというふうに思っています。議員個人であれ、政党であれ、会派であれ、それぞれ SNS を使うにあたってはですね、やはり公の立場にあるということをおあらためて自覚してですね、誤解のないような情報発信をするべきであるということをお強く感じていますし、強く求めていきたいなと思っております。あとは、その共産党の三重県議会の Facebook ページの連絡先等がこの議会の会派控室になっていますので、そういったことがですね、代表者会議でも指摘ありましたけれども、党活動と、いわゆる議会活動と、明確に区分できない部分もありますけれども、公然と議会棟を使って党活動をしているような実態がないかどうかということについては、しっかりと確認をさせていただく必要があると思っています。

(質問) それちょっと今から聞こうと思ったんですけど、つまりこの前の代表者会議でそういった議事堂内の活動についても検討していこうということになっていたのは、それ今回の Facebook の発信元が議員控室だったということなんですか。

(議長) その Facebook のログを確認したわけではないんですけども、少なくともその Facebook ページの書かれている電話番号の連絡先がこの議事堂の共産党の会派控室の電話番号でありましたので、その特定の個人の方もそこへ電話をして抗議をされたということをお聞きしましたので、そうするとこれちょっと疑義があるんじゃないかという声が、自民党県議団から指摘があったんだと思います。

(質問) 議長として、その会派としての Facebook ページに控室の電話番号が書かれているということについては、どのように思われて、どう対応されますか。

(議長) Facebook ページそのものは、いわゆる共産党三重県支部とかそういうものではなくて、共産党三重県議団みたいな、三重県議会の会派としての Facebook ページなので、そこはこの電話番号を使っていた分にはいいと思うんですけども、じゃあその Facebook ページの中で、党活動に値すると書かれるような投稿だとかですね、コメントだとか、もしそういうのがあると、それは混同しているでしょっていうことで、そこはちゃんと分けてくださいよっていうことは言わなきゃいけないなと思っております。

○選挙区及び定数に関する在り方調査会について

(質問) 定数の調査会の話ですけど、前回の審議の結果を見ますと、どうやら中間案の策定に何かこう、見通しに関して、ちょっと当初の予定とは異なっているような状況が感じられるんですが、ちょっと傍聴していないので申し訳ないんですけど、議長のほうからちょっとどういう経緯になっているか、お聞かせいただけませんか。

(議長) まずは、ちょっと東京のほうで開催ということでなかなか傍聴が難しいということをあらためてお詫び申し上げたいんですけども、おっしゃられる通りで、我々も中間取りまとめという形で一つのレポートみたいな形で取りまとめをしていくことができるかなと思っていたんですけども、我々が想像していた以上にさまざまな観点の論点をですね、委員の皆さま方それぞれの専門の立場から出していただき、また、県内の様子も見ていただいた中でですね、

新たな論点というものを加わったりだとかということで、今、その論点を集約していくっていう段階にはまだ早いよねということで、とりあえずそういう論点の論点取りまとめみたいな形にならざるをえないのかな。これから、一番肝になります選挙区定数の議論に行くに至ってですね、その論点の中のどの部分を取り出してという形で議論が進んでいって、最終的にはレポートみたいな形になると思うんですが、当初予定していた2月3月ぐらいに文書としてのレポートが取りまとめられて、それを県民の皆さんやメディアの皆さんや議員の皆さんにお示しできるっていうところはちょっと難しいというのは正直なところです。

（質問）何らかの成果物としてもものが出てくるけれども、それは、中間取りまとめという名のものではない可能性があるという、こういう捉え方なんですかね。

（議長）そうですね。それぞれ中間取りまとめというイメージがあろうかと思うんですが、当初、私とか事務局がイメージしてた中間取りまとめとは若干違う。こういう論点がありましたねってところのリストアップされたものっていう感じになろうかなと思います。それも、次回の調査会が2月18日にあるんですが、それは私ども正副議長とも出席できないんですけれども、その時にあらためて、その中間的な論点まとめみたいなやつを議論をしていただきますので、そこで大体姿が見えるのかなと思っております。

（質問）中間取りまとめのようなものという何らかの形のものが、例えば出たとして、そこから中間取りまとめをあらためて作るわけではない感じですか。

（議長）そうですね。議論を聞かせていただいておりますと、最終的には座長がお決めになるところでありますが、わざわざ、その論点をリストアップしてそれを中間でまとめて、それがなければ次の選挙区や定数の議論いけないかっていうわけではなさそうなので、逆に定数や選挙区の議論をした中で、戻って、この論点の中で、ここを取ってここは取捨というふうな、そういう形で最終まとまっていくような流れになろうかと思います。

（質問）議長としては、立ち上がった時の思いとして、この夏には最終案を出してもらいたいというご希望があったと思いますが、そのスケジュールに今回のこの対応が影響してくる可能性ってあるんでしょうか。

（議長）全く無いと言われると、自信は無いともありますけれども、少な

くともミッションとして、8月にはそういう最後の取りまとめをっていうことを申し上げ、また座長始め委員の皆さんもその意識で議論を進めていただいておりますので、そのターゲットは今のところ変更ないと思っていただいてもよろしいかと思えます。

(質問) こちらからは以上です。

(議長) 私のほうから1点だけなんですけれども、12月の定例会見で発表しました「みえ現場 de 県議会」がですね、バレンタインデーの2月14日の13時半から三重大学のほうで「若者の県内定着の促進」をテーマに開催をする予定となっております。会議はもちろん公開でございますし、どなたでも傍聴可能となっておりますので、ぜひメディアの皆さんにもですね、当日取材等していただければありがたいなと思ってます。2月14日13時半から三重大学でテーマは「若者の県内定着の促進」でございます。よろしく申し上げます。どうもありがとうございました。

(以 上) 10時55分 終了